

地域の高等学校教育のあり方に係る意見を聴く会 意見概要
<甲賀市PTA連絡協議会>

- 日 時 平成24年(2012年)6月18日(月) 19:30~20:40
- 場 所 甲賀市役所甲南庁舎会議室
- 参加者 甲賀市PTA連絡協議会 5名
- 主な意見 ※ 同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。

- 生徒が高校に通いやすいことが大切。再編ありきでは生徒が切り捨てられる。交通の利便性を考えた再編計画にすべき。
- 信楽高校は、セラミック科やデザイン科のような特殊な学科がある学校で、通学してくる生徒は甲賀市からが殆どである。少子化で生徒が少なくなり、信楽高校も1学科1クラスの小規模校になった。定員割れすることも多いが特色のある学校。生徒の人数が少ないことで切り捨てることはまずい。
- JRがなく、信楽高原鉄道しかない。信楽高校が切り捨てられると、信楽町がますます過疎化する。高校教育だけでなく信楽町が大きなダメージを受ける。時間の猶予を貰って、今の状態が打破できない時にもう一度考えて欲しい。
- 分校時代は、分校には校長がいない、本校に権限があり分校にないなど弊害が多かったが、特色のある学科を打ち出して、やっと分校から本校になった。本校から分校に戻ることは、先輩たちの思いが途絶えることになるため避けたい。
- 県外から生徒を募集してもらうのは有難いが、特色のある学科に興味を持って来てもらうようにし、定員は減らさないで様子を見て欲しい。
- 信楽高校の定員割れは聞いていたが、危機感を持っていなかった。信楽の人は、再編により信楽高校の危機を再確認し、ねじを巻いて頑張ろうという機運も高まっている。これをチャンス変えていきたい。
- 信楽高校を分校にすることによって、何が変わるのか教えて欲しい。
- 甲南高校の分校になること、母校がなくなっていくことは悲しい。セラミック科、デザイン科は珍しい学科。陶器を学びたい生徒は沢山いるので全国募集をして欲しい。
- 信楽高校には色々な才能を持った先生が沢山いる。もっと、全国的にアピールすべき。
- 信楽高校に生徒をたくさん集めることは難しいが、世界的に有名になる方も出ている。数でない大切なところを考えて欲しい。「好きな絵が沢山書けた。自分自身の成長の大きな部分になっている。」と言っている。
- 変わることのメリットとデメリット、変わらないことのメリットとデメリットを考えてみる必要がある。結果ありきでは受け入れがたい。
- 東海道沿線と違って、草津線沿線は通学できる学校が限られている。
- 普通科だけの学校では、互いに刺激し合い、知らない世界を知ることはできない。信楽高校は違う方向性、自分を見つけることができる。
- 就職難の時代だが、高校から大学につながっていくことが大切。高校から大学にうまく道筋をつけると、自分の将来のイメージを作りやすくなる。

- 学校が地域からいつも刺激を受けられる環境を整えて、学校とともに発展したい。地域の起爆剤になれば良い。
- 交通不便地であるため、遠距離通学ができない。下宿して学校に通える仕組みを地域で工夫する必要がある。
- 信楽高校に県内でも遠方から通うのは難しいので、業界と連携し、格安のアパートを提供できれば良い。業界は生徒に協力して、生徒も学んで業界に返せば良い。
- 信楽は下宿しないとイケない。環境を整えることは難しいが、業者とタイアップして働きかければ可能性はある。環境を整え宣伝し、皆が認知したら魅力ある学校にできる。
- レジデンスという業界向きの場所がある。
- 学校に魅力がないと苦しい。信楽にはセラミック科がある。他の地域と留学交換してみるのも1つの方法。
- 学校の魅力を出すためにはこうすべきという案を出しても良い。海外の陶器で有名なところ、例えばマイセン(ドイツ)と姉妹都市になるのも良い。語学も学習できる。
- 中学3年生が進路を決める時、デザイナーになろうという生徒はそれほどいないが、興味のある生徒はいる。色々宣伝すれば、信楽高校に行こうという生徒は出てくる。
- 学校が有名になるためには、スポーツに強くなることが一番手っ取り早い。例えば野洲高校のサッカー、野球の常連校など。
- セラミック科、デザイン科を宣伝しないとイケない。勉強は嫌いだが、セラミックやデザインに興味のある生徒はいる。
- 英語や数学のできる生徒が世の中で役に立つかは疑問。人間性の部分が社会に出てから大切になる。
- 産学関係者、生徒を盛り上げていく組織を作らないとイケない。危機的な勢いだけでなく、中長期的に活動できる継続的なことを考えないとイケない。芯になる組織をつくり常に研究していく。また、精神論だけでなく、ハード面も確保する必要がある。
- 3年間野球部に所属したことは、自分の宝になっている。縦のつながりがあり、今でも先輩後輩や監督とも連絡を取っている。人数が少ないため、一人当たりの練習量が多かったが、その経験があったので、今頑張れている。
- 団体競技になると大きな学校には叶わなかったが、レスリング部、ボクシング部などは強かった。テニスも有名な先生がいて強かった。大きい学校と比較すると、低迷しているように見えるが個人技では決して負けていない。
- 今年、来年の学校のあるべき姿を考えて、そのための手段を考えていくことが必要。